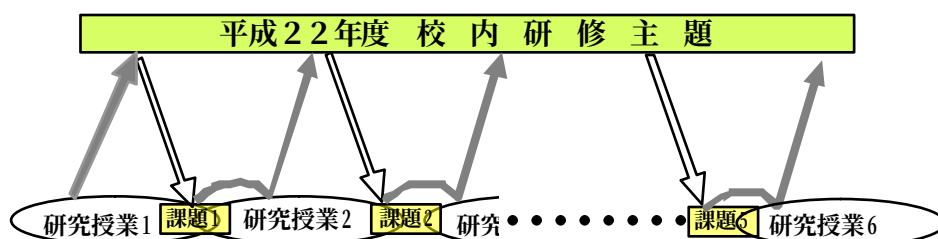


授業改善への要求は従前からあった。学習意欲の低下が問題のなった時も然りである。しかし、自分の授業への改善を自覚しない限り、授業改善への取組は他人事になるだろうし、させられる授業改善となる恐れがある。

その自覚化は、まず一人ひとりが校内研修へどのように取り組むか、研修の方向性を教職員全員が共有することから始まると思う。4月当初は年度初めでなかなかその時間確保が難しいが、ここにしっかり時間をかけることを進める。と同時に、学校の教育目標の達成に向けた校内研修であることも確認したい。

次は、毎年実施される一人1回程度の校内研修会での公開授業のあり方を再考してほしい。ともすれば、本時の授業が終わればよいという研究授業になっていないだろうか。校内研修主題に迫る授業を構成し、他の教職員に公開していくのが、大半の学校の公開授業のあり方になっている。しかし、校内研修主題に迫るはずではあるが、前回の研究授業で残された課題はほとんど無視され、研究授業がつながっていないのが現状であろう。前回の研究授業で紡ぎ出された課題も含み込んだ、授業研究を実施してはどうか。リレー方式（下図）の研究授業で研修主題に迫る方が、学校研究としての意識が高まると考える。



授業改善は、他人事でもなくさせられるものでもない。自分の授業を丁寧に振り返り、子どもの事実謙虚になることが、授業改善には必要である。（芝）